

18年度伊豆地域

観光交流客微減 4703万人

悪天候
影響

ゲートウェイ
函南は好調

2018年度
伊豆地域観光交流客数

沼津市	4,500,770	▲2.7%
熱海市	6,870,980	1.5%
三島市	7,748,456	1.0%
伊東市	11,447,901	▲4.4%
下田市	2,738,342	▲3.4%
伊豆市	3,531,477	▲2.9%
伊豆の国市	2,108,515	▲1.2%
東伊豆町	1,474,871	▲6.5%
河津町	1,573,770	2.8%
南伊豆町	899,839	0.5%
松崎町	331,854	0.7%
西伊豆町	728,411	▲6.8%
函南町	2,508,243	21.5%
清水町	568,635	4.6%
伊豆地域計	47,032,064	▲0.7%
県計	153,415,578	▲2.0%

※単位：人、表の右は前年度比（▲は減少）

18年度の「観光交流」伊豆地域（沼津市、清水町を含む14市町）の

度比0・7%減の約4703万人だった。県

全体は2・0%減の約1億5300万人で、

県は悪天候によるイベント中止や新装に向けた施設の一時的閉館などによる観光レクリエーション客数の減少が主な原因とみている。

伊豆地域の観光交流客数微減の要因について県は、河津町梨本に体感型方エル館「Ka

wazo（カワズー）が新たにオープンし、函南町塚本の道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」への入り込み

が好調だった一方で、悪天候による「沼津花火大会」の一部企画中止などが影響したと推測している。

繁忙期の主要観光施設の入り込み状況で伊豆関係では▽熱海市はマスクミで取り上げられる機会が増えて首都圏の宿泊客が増加した（大型連休）▽海水浴客数は台風の接近に伴い前年より減少した（夏季）▽三島スカイウォークでは樹木アスレチックが人気を集め

来客増につながった（年末年始）などの話題が取り上げられた。

観光交流客数は、宿泊客数と観光レクリエーション客数の合計。観光レクリエーション客数は、観光施設、スポーツレクリエーション施設、イベントなどへの入場者・参加者の合計で、1399の施設やイベントを調査対象にした。